

カテゴリ:貨物

2026年3月31日

羽田空港国際貨物地区・成田空港貨物地区における フォークリフト(3.0トン以下)の100%EV化を達成

～走行時の排気ガスがゼロになり、1台あたりのCO₂排出量を年間約30トン削減します～



今回導入した電動フォークリフト（一例）



電動フォークリフトの充電の様子

羽田空港および成田空港でJALグループの国際貨物郵便のハンドリング業務を担う株式会社JALカーゴサービス(以下「JALカーゴサービス」)は、羽田空港国際貨物地区と成田空港貨物地区において使用するフォークリフト(3.0トン以下)全242台^{*1)}の100%EV化を2026年3月31日に達成しました。EV化により、従来のディーゼルエンジンフォークリフトに比べて1台あたりのCO₂排出量を年間約30トン(約80%)削減することが可能となり^{*2)}、羽田・成田の両空港で年間約7,260トンのCO₂を削減できる見込みです。

EV化の推進にあたっては、従来の鉛バッテリーに代わり、急速充電が可能なリチウムイオンバッテリー搭載機を積極的に採用しました。これにより、24時間体制でハンドリングが求められる国際貨物の現場において、フォークリフトの充電待ちによるロスタイムを最小限に抑え、物流の停滞を防ぐ高度なオペレーションを維持します。また、ディーゼルエンジン特有の排気ガスや騒音が解消されることで、貨物上屋で働くスタッフの労働環境改善にも寄与し、安全かつクリーンな上屋環境を実現します。

JALグループでは、2050年のCO₂排出量実質ゼロ(ネット・ゼロエミッション)を目指し、羽田・成田以外の地区でも、フォークリフトのEV化を順次拡大しております。これからもグループ一丸となって環境負荷の低減に努めるとともに、お客さまへ高品質な貨物郵便ハンドリングサービスを提供してまいります。

*1)2026年3月31日時点で、羽田空港国際貨物地区で22台、成田空港貨物地区で220台稼働中。

*2)トヨタL&F千葉株式会社さまにて試算。前提条件:1ヶ月あたり30日、1日あたり12時間稼働(1時間当たり55%稼働)。

同型ディーゼル燃料使用車とのCO₂排出量比較

以上